

BUDŌ

NEWS

今月のニュース

第 68 回全日本剣道選手権大会
第 59 回全日本女子剣道選手権大会



第 43 回全国高等学校柔道選手権大会



第68回全日本剣道選手権大会

第59回全日本女子剣道選手権大会

松崎賢士郎、諸岡温子が初優勝

史上初の男女同時開催

男子決勝戦＝松崎（右）が出ばな小手を決める



剣道日本一を決める第68回全日本剣道選手権大会（男子）と第59回全日本女子剣道選手権大会（いずれも全日本剣道連盟主催、長野県剣道連盟主管）が3月14日、長野市真島総合スポーツアリーナ「ホワイトリング」で開催された。大会には、各都道府県予選を勝ち上がった代表選手男女各64名が出場。男子は茨城県代表の松崎賢士郎四段（22）（ちのきけんしろう）、筑波大4年^{II}、女子は東京都代表の諸岡温子三段（20）（もろおかあつこ）、中央大2年^{II}の、共に大学生が初の栄冠に輝いた。

例年、全日本剣道選手権大会は11月に日本武道館で、全日本女子剣道選手権大会は9月にホワイトリングで開かれているが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で両大会ともに延期となり、史上初の男女同時開催となった。

参加選手も、コロナ禍で警察官が出場を見送ったため、実業団・大学生が中心。初出場者は94名となった。

試合はトーナメント方式で、全日本剣道連盟剣道試合・審判規則と同細則および感染拡大予防ガイドラインに沿った試合方法（フェースシールド・マスクの着用、鏑（つばぜ）競り合いを避けるなど）により行われた。試合は3本勝負、試合時間は5分とし、時間内に勝敗が決しない場合は延長戦を行い、先に1本をとった者を勝者とした。

男子

1 回戦〜準々決勝

◇第1ブロック

前回大会準優勝の松崎賢士郎（茨城筑波大4年）は、初戦で高優司（大阪・バナソニック）と対戦。硬さの見られる松崎に対し、高は積極的に攻め、見事な出ばな小手を決めて先制した。しかし、松崎は直後に面返し胴を決めて追いつくと、最後は高の手元を浮かせ、豪快に跳び込み面を決めて逆転勝利。2回戦は矢野博之（長野・文化学園長野高教員）に跳び込み面で、3回戦は宮崎東平（長崎・瓊浦高教員）に延長戦で小手を奪い、順調に準々決勝に進んだ。

もう一方は2回目の出場となる白木恒二郎（徳島・川高教員）が勝ち上がった。白木は初戦で石田雄二（東京・大塚家具）、2回戦で山川泰



準々決勝①=松崎（左）が小手を決める

二（沖縄・大工）、3回戦で杉本航輝（神奈川・日体大4年）を破り、初めての準々決勝進出を果たした。

松崎と白木の顔合わせとなった準々決勝第1試合は、共に得意の面を中心に攻めるが決め手を欠き、勝負は延長戦に持ち越された。2回目の延長突入後の40秒過ぎに試合は動いた。白木が胴をねらい、一瞬手元が浮いたところを松崎は逃さず、小手を押さえて勝負あり。松崎が2年連続の準決勝進出を決めた。

◇第2ブロック

大会初出場ながら、2018年世界選手権代表メンバーの星子啓太（鹿児島・筑波大4年）に注目が集まった。星子は初戦で九州学院高時代の1年先輩である本間渉（千葉・三井住友海上火災保険）と対戦。本間とは全日本学生優勝大会の決勝、大将戦で対戦しており、本間に2本取られて敗れている。勝負は延長戦へ突入するが、延長3回を経ても勝負はつかず、いったん休憩（5分間）に入った。試合再開後の延長戦開始1分過ぎ、ついに試合が動いた。本

間が居着いた一瞬の隙を星子は見逃さず、引き面を決め、苦しみながらも勝利した。続く2回戦では金子裕晃（群馬・澁川青翠高教員）、3回戦では榮翔平（兵庫・刑務官）と対戦。いずれも延長戦の末に勝利し、準々決勝に駒を進めた。

今大会最年少、20歳の安藤千真（愛知・立命館大2年）は、初戦で光石理人（山梨・山梨檜の会）、2回戦で上田大輔（鳥取・鳥取県立武道館）、3回戦で同じく20歳の岩部光（香川・国士館大2年）を破り、堂々の準々決勝進出。

準々決勝②=延長の末、星子（右）が安藤から面を奪う



準々決勝第2試合は、3度の延長戦を粘り強く勝ち抜いた星子と史上最年少優勝を狙う安藤の大学生同士の対戦となった。試合は星子がペーシングを握り、小手を中心に攻める展開が続く。対する安藤も、星子の攻めをなんとかしのぎ、勝負は延長戦へ突入。星子は延長戦に入ってからも小手をねらい、積極的に前に出る。

好評発売中

小笠原 清忠

(弓馬術礼法小笠原教場
三十一世宗家) 著

武道の礼法



相手に誠心が響く礼法を小笠原流礼法宗家が
直々に指南する、武道関係者必読の一書。



四六判・上製・278頁

◎ ご注文・お問い合わせ ◎

日本武道館 月刊「武道」編集部
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
TEL 03-3216-5147 FAX 03-3216-5158
http://www.nipponbudokan.or.jp

そして、2回目の延長に入ると、星子の小手を中心とした攻めがついに実を結ぶ。ここまでは単発の小手打ちだったのが、小手から右面への鮮やかな連続技に安藤は反応できず面あり。またも延長戦を制した星子が筑波大の同級生、松崎が待つ準決勝へ進んだ。

◇第3ブロック

混戦が予想された第3ブロックを勝ち進んだのは、2回目の出場となる村上雷多(大阪・大阪教育大教員)と初出場の森山竜成(神奈川・筑波大3年)。村上は初戦、2回戦と延長戦を制して勝ち進み、3回戦で今大会最年長、45歳の山本有樹(東京・

NTTコミュニケーションズ)と対戦。山本が跳び込み面で先に一本を奪うが、村上は出ばな小手、跳び込み面を決めて逆転勝ち。村上が準々決勝へ勝ち進んだ。

もう一方は筑波大3年の森山が初戦で藤岡弘径(福岡・福岡第一高教員)、2回戦で橋本将輝(京都・筑波大4年)、3回戦で山下和真(茨城・茗溪学園中・高教員)を破り、初出場ながら準々決勝に進んだ。

村上と森山、ともに初めての準々決勝進出者同士の顔合わせとなった準々決勝第3試合は、開始15秒過ぎ、村上が一足一刀の間合から思い切り跳び込んで面を決め、村上が先制。森山もフェイントで村上の手元

が浮いた瞬間に豪快に跳び込んで面を取り返す。しかし、追いつかれた村上に焦りは見られず、森山が面にくる出ばなを小手で押さえ、初の準決勝進出を決めた。

◇第4ブロック

第65回大会で3位の林田匡平(福岡・丸岡高教員)は、大平翔士(栃木・筑波大2年)との初戦で先に面を取られるが、得意の跳び込み面を2本取り返して逆転勝ちすると勢いに乗った。2回戦で野崎将秀(北海道・東京学芸大3年)、3回戦で林田浩志(福岡・福岡刑務所)に勝利し、準々決勝に駒を進めた。

同級生である白鳥湧也(千葉・筑波大4年)が初戦で佐伯太郎(宮崎・高千穂高教員)、2回戦で長田悠樹(静岡・同志社大3年)、3回戦で中嶋優樹(東京・三菱商事)を破り、準々決勝に進出した。

林田对白鳥の準々決勝第4試合は、いきなり林田が動いた。開始3秒、一足一刀の間合から思い切った面に跳び込む。白鳥も胴を返すが林田の面に旗が2本上がり、林田が先制した。その直後、またも林田が跳び込み面にくるとこれが決まり、林田が試合時間わずか7秒、2振りでの勝負を決め、自身2度目の準決勝に進出した。

準決勝①

○松崎賢士郎（茨城）×——星子 啓太（鹿児島）
 2年連続で準決勝に進出した松崎と前回大会で松崎の付き人を務め、初出場ながら接戦を勝ち上がった星子による筑波大学の同学年対決となった。大学では星子が主将で松崎が副主将、チームメイトであり良きライバルでもある。直近では一昨年、第67回全日本学生剣道選手権大会の決勝で対戦しており、この時は星子が勝っている。
 手の内を知り尽くしている両者だけに試合開始から互角のせめぎ合いが続くが、試合時間残り30秒を切ったところで均衡は破られる。星子が得意の小手に打って出た瞬間、松崎も得意の面に跳ぶ。松崎が一瞬早く面を決め、2年連続の決勝進出を果たした。



準決勝①＝松崎（左）が一瞬早く面を決める

準決勝②

○村上 雷多（大阪）×——林田 匡平（福井）
 2回目の出場で初めて準決勝に駒を進めた村上と、第65回大会以来3大会ぶりの準決勝進出となった林田。筑波大学出身の2人による対戦となった。
 試合はいきなり動いた。開始30秒過ぎ、村上が剣先を下げて一歩踏み出して攻め入ると林田は下がって間を外す。しかし、村上はそのから思い切った面に跳び込む。林田も小手にいくが村上の竹刀が一瞬早く林田の面を捉え、村上が先制した。取り返したい林田は積極的に前に出るが、村上は林田の攻めをうまくさばき、有効打を許さない。そのまま試合は終了し、村上が初めて決勝に進出した。



準決勝②＝村上（右）の豪快な跳び込み面が決まる

決勝戦

○松崎賢士郎（茨城） ムコー——村上 雷多（大阪）
筑波大学OBの村上と筑波大学4年の松崎。どちらが勝つても初優勝となる。

開始1分、松崎は出ばなを狙って面に行くがこれは村上がしつかり受ける。開始2分過ぎ、松崎が思い切って面に跳び込むが村上は剣先を崩さず決まらない。しかし、積極的に技を繰り出す松崎に試合の流れは徐々に傾いていく。2分50秒過ぎ、村上が前に出て間合を詰めようとするが松崎はそれを許さず、体を退き、間を詰めさせない。そして次の瞬間、松崎は剣先をくるりと回転させ、思い切って面に跳び込む。村上も面に行くが完全に遅れてしまった。赤旗が3本拳がり、松崎が先制した。

残り時間が2分を切り、何とか取り返したい村上。しかし、松崎は村上の動きがよく見えており、反撃を許さない。そして、開始3分15秒、松崎は村上が面に来たところを完璧な出小手で押さえる。その瞬間、赤旗が3本バツと上がって勝負あり。松崎が筑波大の先輩である竹ノ内佑也（第62回大会）以来、学生での優勝を成し遂げた。



決勝戦＝対峙する村上（左）と松崎



初優勝を決めた松崎



決勝戦＝松崎（左）が跳び込み面を決めて先制する

女子

準決勝①

○諸岡 温子(東京) メメー——メ 竹中 美帆(栃木)

準々決勝まで得意の面で試合を制して勝ち上がったきた諸岡と、前回大会3位の竹中による対戦となった。

試合序盤から両者、激しい打ち合いが続く。開始1分過ぎ、諸岡は小手にいくが決まらず、逆に竹中が返し面を打ち込み先制する。しかし、諸岡はこの一本をきつかけ反撃に転ずる。試合再開からわずか15秒後、諸岡が跳び込み面を決めて竹中に追いつき、試合はそのまま延長戦へ突入。その1分後、両者面に跳び込むが、一瞬早く諸岡の竹刀が竹中の面を捉える。旗は諸岡に3本上がつて試合終了。諸岡が見事逆転勝利し、初の決勝に勝ち進んだ。



準決勝①=諸岡(右)が跳び込み面で竹中に追いつく

準決勝②

○山崎 里奈(宮崎) メメー——メ 小松 加奈(青森)

明治大学3年の山崎と同4年の小松の先輩・後輩対決。両者は一昨年の第53回全日本女子学生選手権の決勝で対戦しており、この時は小松が勝っている。

互いに手の内を知っているためか、両者序盤から探り合う中、先に決めたのは山崎。小松が小手を打とうと剣先を上げたところに山崎が素早く面を打ち込み一本を先取する。しかし、残り時間1分、両者共に面を打つと一瞬早く小松の面が決まって取り返す。その後は互いに技を繰り出す機会を窺うも決め手を欠き、試合は延長戦へ。そして、延長戦開始1分半、山崎が小松の手元が上がった瞬間を見逃さずに面を決めて勝利。2年前の雪辱を晴らし、決勝戦へ。



準決勝②=山崎が2本目の面を決めて決勝進出を果たす



決勝戦＝延長戦の末、諸岡（右）が面を決める



鋭い面を仕掛ける諸岡（右）



試合直後の諸岡

決勝戦

○諸岡 温子（東京） × —— 山崎 里奈（宮崎）
 決勝は初出場の諸岡と2度目の出場の山崎の顔合わせ。両者は共に中村学園女子高の卒業生。

試合は序盤から、両者が技を仕掛けるタイミングを狙うも決めきれない。時折、諸岡が面に跳び込もうとするも山崎はこれをかわす。試合はそのまま延長戦へ。先に仕掛けたのは諸岡。開始直後に再び面へ跳び込むがこれは山崎がしっかりと受ける。その後、山崎が攻め入るが諸岡は構えを崩さず、隙を見せない。そして延長戦開始1分過ぎ、山崎は小手に、諸岡は面に跳び込むと諸岡に旗が3本上がつって試合終了。諸岡が初出場で優勝の快挙を成し遂げた。

決勝の壁を乗り越えて掴んだ初優勝

◎優勝Ⅱ松崎賢士郎（茨城県・筑波大4年）



松崎賢士郎(まつざき・けんしろう)

長崎県諫早市出身。22歳。184cm。小学1年生のときに真崎少年剣道会で剣道を始める。諫早中学校では全国中学校剣道大会個人2位。島原高校へ進み、魁星旗2位、玉龍旗2位、インターハイ団体2位、同個人3位。筑波大学に進学し、2019年全国学生選手権大会2位。全日本選手権大会は3回目の出場で前回大会2位。

りで挑みました」

——2本目は小手で決めましたが、昨年の決勝の教訓（昨年は小手を取られて敗退）がいかにされたのでしょうか。

「面だけの攻めでは警戒されてしまうので、この1年間、小手もしっかりと磨いてきたつもりなので、それが最後に決まってよかったと思います」

——自肅期間中、モチベーションを保つのが難しい期間があったのではないかと思います。

「いつ稽古が再開できるか不安だった時期もありましたが、本当にたくさんの方々のおかげで今日を迎え、このような舞台に立つことができ、感謝の気持ちでいっぱいです」

——昨々が2位、今年は優勝という結果を、今後の人生にどう繋げていきますか。

「大学院に進学するのでいろいろと忙しくなると思いますが、今回は警察官の方々がいなかった中で優勝したので、この優勝に驕ることなく、次のステップに繋がられるよう精進していきたいと思います」

——昨年は決勝戦で敗れました。今年はどうな思いで決勝戦に臨んだのでしょうか。

「決勝の壁というものを思い知らされた1年だったので、今年は何とかその壁を乗り越えたいとの思いで、自肅期間中もモチベーションを保ってやってきました。ここで負けたらまた2位だという気持ちも正直あったのですが、悔いの残らないように今までやってきたことを信じ、自分のできることをすることが勝利に結びつく鍵だと思っていました」

で、あまり迷わず決勝戦に臨むことができました」

——準決勝で筑波大学同学年である星子選手を破つての決勝戦となりました。どんな思いで戦いましたか。

「共に4年間戦ってきた仲間である星子に勝つたからには、決勝も悔いの残らない試合にしようという気持ちで戦いました」

——決勝戦は時間内に2本取つての勝利となりました。

「相手が筑波大学の偉大な先輩である村上先輩でしたので、胸を借りるつも

▽準優勝 村上雷多選手（大阪）

「初戦は良くなかったのですが、試合を重ねるにつれて積極的に技を出すような気持ちを入れていきました。面に跳ぼうと思っていたわけではな

いのですが、結果的には（面がよく決まって）良かったです。最後（決勝戦）、もう少しやれたかったです。反省点が多くありましたので、そこを稽古して来年も頑張りたいと思います」

▽第3位 星子啓大選手（鹿児島）

「結果は悔しいです。自分の気持ちの弱さであつたり、下がる相手への対処法が不十分だったと思います。悔いの残らない試合をすることが目標でもあったので、準決勝まで進んで松崎と対戦し、思い切りできたことは良かったと思います。来年も出場を目指し、結果を求めて稽古していきたいと思います」

▽第3位 林田匡平選手（福井）

「悔しいです。尻上がりに良くなってきたのですが、準決勝では自分の剣道が全くできず、通用しなかったと痛感しています。今回で3位が2回目ですので、次こそは優勝したいと思います」

挑戦者の気持ちで臨んだ全日本の舞台

◎優勝Ⅱ諸岡温子（東京都・中央大2年）



——優勝した率直な感想を聞かせください。

「優勝したという実感が湧かず、未だに信じられないです」

——決勝戦は高校時代の先輩である山崎選手との対戦でした。どのような気持ちで挑みましたか。「初出場だったので、決勝だけでなく全ての試合にチャレンジャーの気持ちで挑みました。また、悔いの残らないような試合をすることを意識しました」

——決勝で勝負が決まった瞬間、どのような思いでしたか。

「なんとなく決まっていた、という感じでした。山崎選手が技を仕

掛けようとしたところに体が勝手に反応していた感じでした」

——この大会にはどのような思いがありましたか。

「たくさんの有名な女性剣士が優勝されていて、小さい頃から見ていた憧れの大会だったので、やり切る気持ちでいっぱいでした」

——練習してきた中で感じたことはありますか。

「新型コロナウイルスの影響で稽古ができなかった時期もあったため、剣道ができる環境は当たり前ではないこと、だからこそ精いっぱい練習に励もうと思うようになりました。また、共に練習している仲間と剣道をできることが楽しいと改めて感じることができました」

——今後はどのようにこの結果を繋げていきたいですか

「9月にも大会があるので、それに向けて今回の試合の反省点をいかにしていきたいと思います」

◎準優勝Ⅱ山崎里奈（宮崎）

「決勝戦で対戦した」諸岡選手は高校の後輩ですが、それは意識せずに向かつていきました。しかし、最後はいいところを打たれたので、また出直したいと思います。同じ高校（中村学園女子高）出身者が多く出場していたので自分も負けられないというモチベーションになりました。試合では上を見るのではなく、一戦一戦目の前の相手に集中することを考えた結果、決勝まで上がるこ

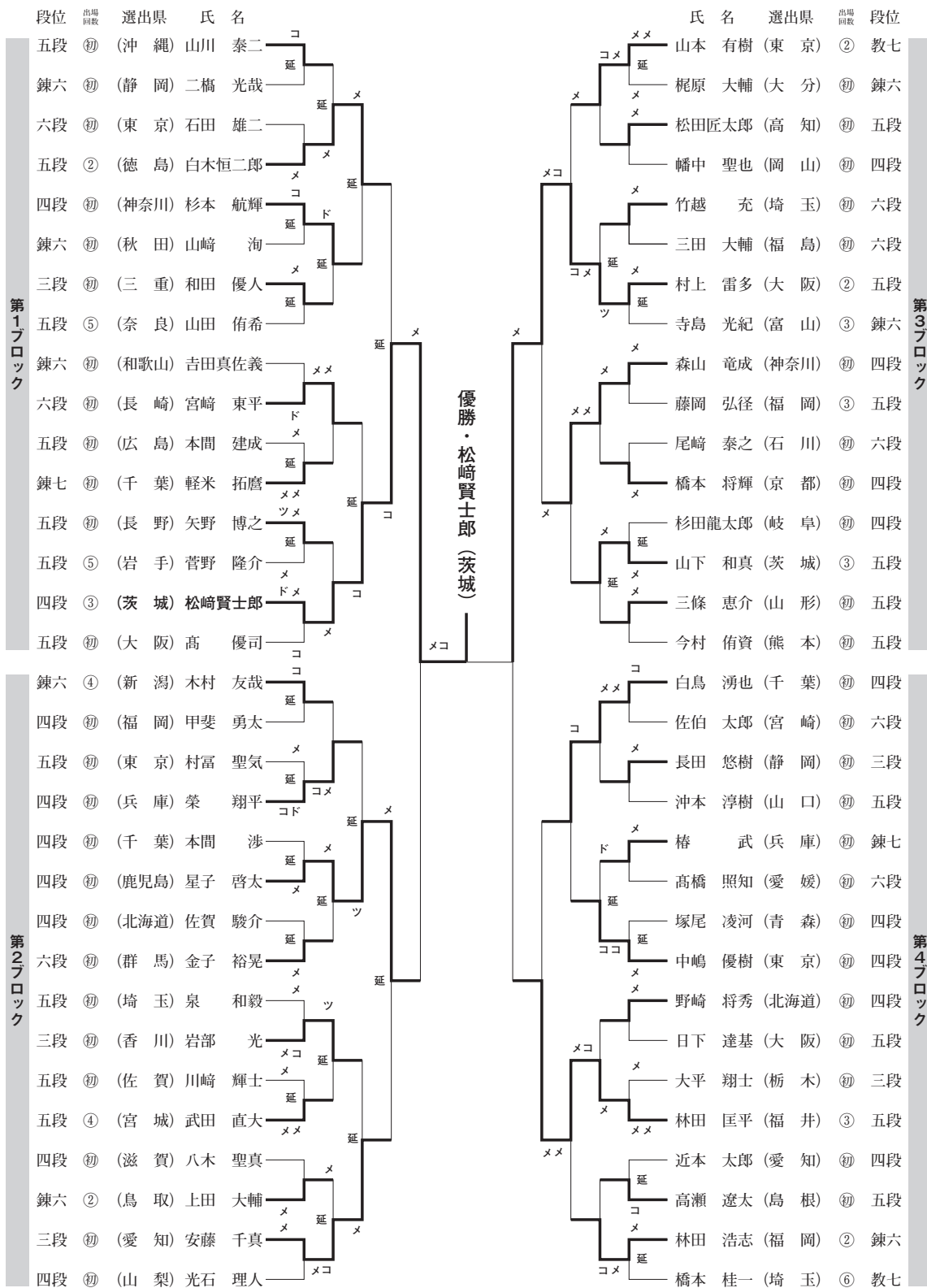


会場となった長野市真島総合スポーツアリーナ「ホワイトリング」

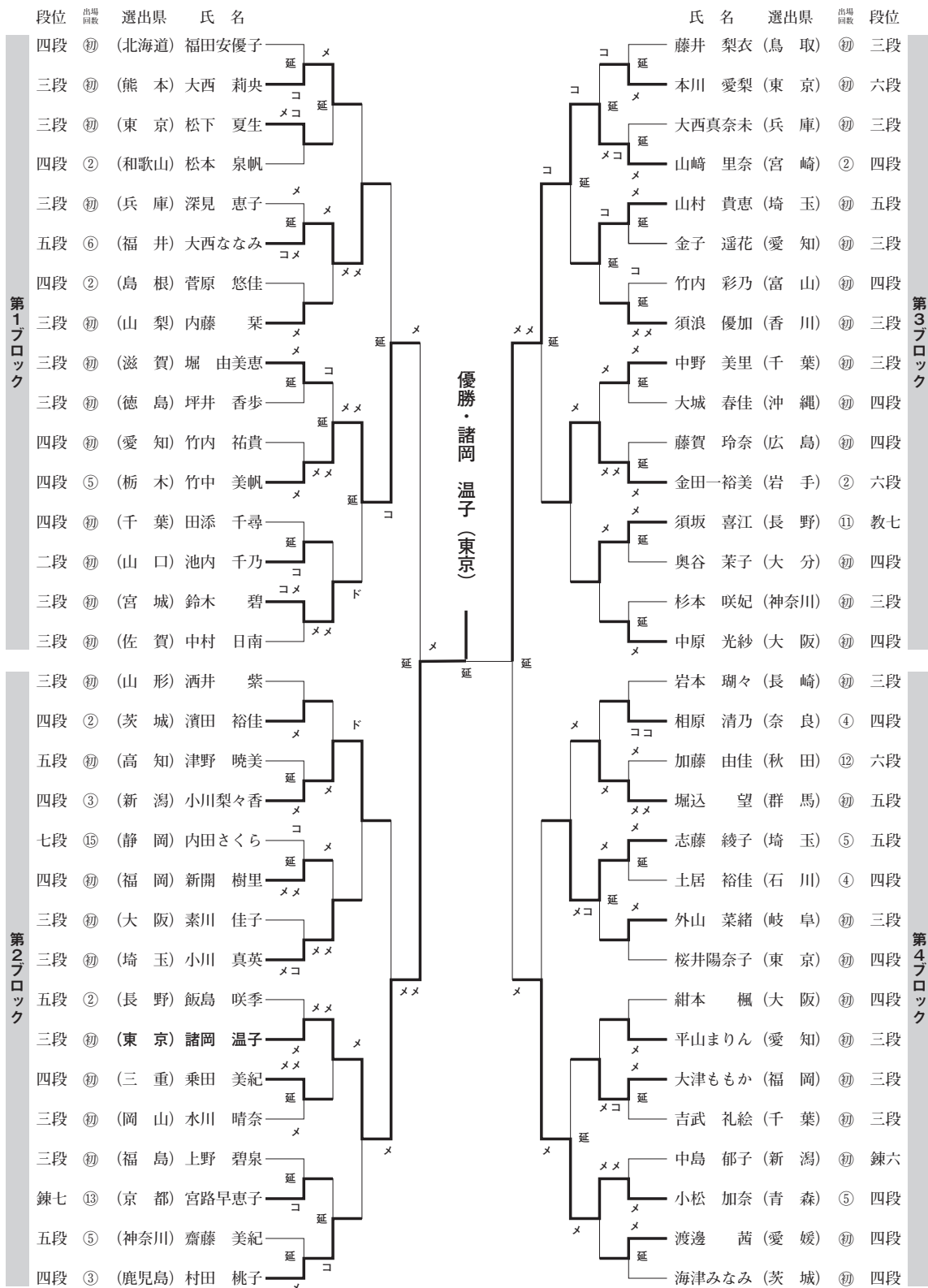


多数の入賞者を出した筑波大の現役・卒業生選手と関係者

第68回全日本剣道選手権大会



第59回全日本女子剣道選手権大会



山神眞一 著 (香川大学教授・同学部長、医学博士、剣道教士八段)

役に立つ少年剣道指導法

好評発売中

少年剣道指導の現場で役に立つ月刊「武道」好評連載を単行本化。現代の少年剣道が抱える様々な問題点に対して、長年教育現場で培った筆者の視点から解決の糸口を探っていく。少年剣道指導者必読の一書。付録のDVDには、写真では伝え切れなかった実技関連の部分を収録時間115分を超える映像で紹介。

解説DVD付属!



A5判・並製・
256頁・DVD付・
本体2400円+税

目次

- 第一章 一眼子どもと少年剣道の今を眼る
現代の子どもの体と心を見つめ直す／少年剣道の現状と課題／少年剣道に対する保護者の声
- 第二章 二足少年剣道の足跡とこれから
現代剣道復活の道程とこれからの少年剣道／剣道の国際化と少年剣道の未来／少年剣道拡大の秘密を探る
- 第三章 三胆指導者の胆力を求めて
少年剣道における指導者の在り方／文武両道と少年剣道／コミュニケーション力と人材育成の極意
- 第四章 四力技の力を学ぶ
剣道のアイスブレーキング／礼法について／立礼と座礼／木刀・竹刀を使用した構えと素振りの対人的指導法／切り返し段階的指導法／基本打突の打ち方と打たせ方／連続技の打ち方と打たせ方／払い技の打ち方と打たせ方／引き技の打ち方と打たせ方
- 第五章 残心
海外での剣道事情／中学校における剣道授業
あとがき

編集・発行 公益財団法人 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

◎好評発売中

筑波大学教授 酒井利信 著
四六判・上製・346頁・本体2400円十税

刀剣の歴史と思想

刀剣を単なる武器としてではなく、
神聖なものとして捉える思想とは何か――



題字揮毫―鹿島神宮 鹿島則良 宮司

日本独自の展開をみせてきた刀剣に関する思想を、中国、朝鮮など、東アジアにまでルーツをたどりながら、確かな史料を基に考察。古事記・日本書紀に語られる神話、平家物語・太平記などにみられる三種の神器にまつわる記述、鹿島新當流、示現流に伝わる伝書といった歴史的文献を読み解き、日本刀剣思想のオリジナリティを浮かび上がらせる。

目次

終章	「稽古照今」
第六章	近現代における刀剣思想
第五節	古代以降の刀剣思想
第四節	鹿島神宮日本刀奉納鍛錬
第三章	近世剣術における刀剣思想の展開
第二節	示現流にみる心の利剣
第一節	新当流にみる霊剣の技術
第二章	「太平記」が語る草薙剣像
第一節	「平家物語」にみる三種の神器
第一章	三種の神器の不思議
第四節	中世における刀剣思想
第三節	「太平記」が語る草薙剣像
第二節	「平家物語」にみる三種の神器
第一節	三種の神器の不思議
第三章	信仰のなかの刀剣思想
第二節	天地を繋ぐ剣 草薙剣
第一節	祀る剣 祀られる剣
第二章	神話的イメージの形成
第一節	神話的世界の形成と劍神の誕生
第一節	天より降る剣 師靈剣
第二節	天地を繋ぐ剣 草薙剣
第三節	高祖の斬蛇剣
第四節	道教と剣
第五節	古代朝鮮の刀剣思想
序章	探求の旅をはじめに
第二節	刀剣の歴史
第一章	刀剣思想の源流
第一節	古代中国の宝剣伝説 太阿の劍
第二節	干将莫耶の宝剣伝説
第三節	高祖の斬蛇剣
第四節	道教と剣
第五節	古代朝鮮の刀剣思想



編集・発行 日本武道館
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

第43回全国高等学校柔道選手権大会

男子無差別級

藤本偉央 (広島・崇徳) が

粘りの返技で全国制覇

▶男子無差別級・決勝

藤本偉央 (上) ○技あり▲ 長濱佑飛
(広島・崇徳) (GS 3分25秒) (埼玉・埼玉栄)

延長戦で長濱が担ぎにきたところを身長179センチ体重130kgの巨漢・藤本が捲(まく)るように返技を放つ。これが技ありになって藤本が勝利した



第43回全国高等学校柔道選手権大会(主催)全日本柔道連盟、全国高等学校体育連盟)が3月19、20日、日本武道館で2年ぶりに開催された。昨年の42回大会は新型コロナウイルスの影響で中止となり、今大会も首都圏などで2度目の緊急事態宣言が出され開催が危ぶまれたが、感染対策を講じた上で男女の個人戦を無観客で開催した。

男子無差別級・決勝では、藤本偉央(広島・崇徳)が粘り強い試合運びを見せ技ありで優勝。女子の無差別級・決勝では、橋口茉央(佐賀・佐賀商業)が内股すかしで優勝を飾った。選手たちは久しぶりの全国大会で試合ができる喜びを噛み締め、精いっぱい力を振り絞っていた。

◇
大会は全国各地の予選を勝ち抜いた459名(男子231名、女子228名)が出場(東京などは予選開催が困難なため、選手を推薦)。国際柔道連盟試合審判規定ならびに全国高体連柔道専門部申し合わせ事項により、試合時間は3分。19日に女子5階級、20日に男子5階級がトーナメント形式で行われた。

▼男子 73^{kg}級・決勝

花岡晴琉 (右) (宮崎・延岡学園) (K) 僅差▲ 田中龍雅 (佐賀・佐賀商業) (3分)

試合終了間際の田中の猛攻を凌(しの)ぎ、花岡が指導差2により勝利。畳から降りると、思わず顔がほころんだ



▲男子 60^{kg}級・決勝

白金宏都 (右) (長野・佐久長聖) (GS 6分12秒) (K) 僅差▲ 金井拓真 (群馬・桐生第一)

互いに激しい攻防を繰り広げて延長戦となり、指導差により白金が辛勝。目には涙が浮かんでいた

▼男子 66^{kg}級・決勝

猪瀬真司 (上) (埼玉・埼玉栄) (O) 一本背負投▲ 福田大和 (島根・平田) (GS 7分)

激しい組手争いで互いに指導は2。ともに後がなくなったなか、試合開始7分、やや優勢だった猪瀬が鮮やかな一本背負投を決める





▶男子 81^{*}級・決勝

長澤篤希(右) ○送襟絞▲ 東郷丈児
(静岡・静岡学園)(GS 4分7秒) (鹿児島・鹿児島情報)
長澤が送襟絞で延長戦を制した

■男子優勝者コメント

●無差別級Ⅱ藤本偉央(広島・崇徳)

自分の技を貫いて勝利

「決勝の相手の長濱選手は組手がうまく負けるかと思いましたが、自分の技で攻めようと最後まで粘り優勝できました。最後は勢いに乗った長濱選手に入られたので、反対に返したらいけました。優勝はこれまでの努力が実った結果だと思います。憧れは73^{*}級の太野将平選手です。大野選手のような世界で活躍できる選手になりたいです」

●60^{*}級Ⅱ白金宏都(長野・佐久長聖)

一本を取る柔道を目指して

「優勝できて嬉しいですね。学校の先生には一本を取る柔道をしなさいと言われていますが、大会では勝つ柔道、指導をとる柔道をしてしまったので、そこがこれからの改善点です。垣田恭兵選手は昔から手本にしてきた選手で憧れます。その親族である垣田監督を慕って兵庫県の高野から長野県の佐久長聖高校に転校しました。夙川高校では東京オリ

ンピックに出場する阿部詩選手と一緒に環境で練習させてもらいました。私も阿部選手のように五輪の舞台を目指したいです」

●66^{*}級Ⅱ猪瀬真司(埼玉・埼玉栄)

投げる柔道を買って宿敵に勝利

「決勝戦の相手の福田選手は中学時代からのライバルです。全国中学校体育大会と全日本カデ柔道体重別選手権大会で2回負けているので、今回はとにかく前に出て投げて一本を決めると決意していました。勝って嬉しいですね。自分のスタイルは投げて勝つ柔道、泥臭く勝つことです。最後は何度も練習した一本背負が自然に出ました。昨年の大会が中止になった時に仕方ないと開き直り、気持ちを切り替えて、ランニングなど基本トレーニングを行ってきました。メンタルの部分でも成長できたと思います。この勝利を講道館杯などに繋げたいです」

●73^{*}級Ⅱ花岡晴琉(宮崎・延岡学園)

井上康生監督の内股を目指して

「本当に嬉しいです。決勝では攻めて一本をとる柔道を心がけました。

それを貫いたことが優勝に繋がったのだと思います。この1年は乱取りがほとんどできなかったのですが、ここが悪いのか確認しながら打ち込みを黙々と行いました。憧れの選手は井上康生全日本男子監督です。井上監督のような相手がふわっと浮くようなきれいな内股を理想として磨き上げてきました。次は高校ラストのインターハイで優勝をしたいです」

●81^{*}級Ⅱ長澤篤希(静岡・静岡学園)

得意な寝技を活かして優勝

「初めての日本武道館でしたが、無観客だから緊張はせず楽しんで柔道ができました。決勝の相手の東郷選手も強い選手でしたが思い切ったやりました。最後は得意の寝技のチャンスを活かせたと思います。中学では全国中学校体育大会3位にとどまり悔しい思いをして高校生になりました。しかし、コロナ禍で練習ができずにやきもきする時もありました。開き直って私と同じ81^{*}級の佐々木健志選手などうまい選手の動画を暇があれば見て研究しました。最後のインターハイで連覇を目指したいです」

日本武道館の単行本

マンガ・武道のすすめ

大人も子どもも読んで読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。



漫画家・別府大学教授
田代しんたろう 著

相撲は塔尾武夫、住吉和則、
下村勝彦、安井和男の4氏を掲載！

B5判・236頁

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課まで
TEL 03-3216-5147

▼女子無差別級・決勝

橋口茉央（上） ○内股すかし▲ 棕木美希
（佐賀・佐賀商業）（1分30秒）（岡山・創志学園）

激しい攻防のなか、とっさの内股すかしで橋口が勝利。佐賀商業のメンバーが号泣しながら橋口の勝利をたたえた



▲女子48kg級・決勝

池田湖音（左） ○技あり▲ 近藤美月
（埼玉・埼玉栄）（3分）（佐賀・佐賀商業）

1年生同士の対決。試合時間残り1分で池田が背負投で技ありを奪取。試合はそのまま終了して池田が勝利した



▼女子 52^{kg}級・決勝

新井心彩（左） ○小外掛▲ 塩原未々

（埼玉・埼玉栄）（1分44秒）（長野・松商学園）

高校1年生の新井が小外掛で一本勝



▲女子 63^{kg}級・決勝

石岡来望（下） ⊕僅差▲ 鹿歩夏

（岡山・創志学園）（GS 5分53秒）（佐賀・佐賀商業）

繰り出した足技はポイントにはならなかったものの、延長戦に入り指導差によって石岡が優勝した

▼女子 57^{kg}級・決勝

江口凜（上） ○送襟絞▲ 井田侑希

（神奈川・桐蔭学園）（2分21秒）（埼玉・児玉）

先に技ありを取られた江口が試合後半、井田が担ぎにきたところを得意の送襟絞で逆転勝ち



■女子優勝者コメント

●無差別級Ⅱ橋口菜央(佐賀・佐賀商業)

みんなの気持ちを背負って

「佐賀商業のほかの階級のメンバーが決勝で負けてしまったので絶対とってやろうと決勝に臨みました。狙ってはいなかったのですが内股すかしがかかりました。今日は一戦一戦、自分の柔道をやれば行ける、自分が一番強いと感じました。この優勝を次に繋げていこうと思います」

●48^{kg}級Ⅱ池田湖音(埼玉・埼玉栄)

思いきり出し切った背負投

「本当に嬉しいです。決勝は最後の試合なので絶対勝とうと思いましたが。思いきり出した背負投がしっかりとポイントとなりました。いずれは世界を目指したいです」

●52^{kg}級Ⅱ新井心彩(埼玉・埼玉栄)

久しぶりの大会で意気込んだ

「やっぱり、技ありより一本を取るのが気持ちいいです。投技を狙っていたので、小外掛を狙っていた訳ではありません。中学3年以來の久しぶりの全国大会でしたので絶対勝とうと思いました」

ぶりの全国大会でしたので絶対勝とうと思いました」

●57^{kg}級Ⅱ江口凜(神奈川・桐蔭学園)

将来は世界で活躍する選手に

「課題がたくさんあつて改善しなければなりません。技有を奪われ残り1分しかなく、寝技で行くしかないと思いました。インターハイをしっかりと勝って、将来はパリ五輪など世界の舞台で活躍していきたいです」

●63^{kg}級Ⅱ石岡来望(岡山・創志学園)

痛みを堪えて勝ちとつた優勝

「今まで、ここぞという時に勝ちきれなかったのですが、決勝は『左手に痛みがあるけどやるしかない。ここまできたら絶対日本一になる』と決めて戦いました。コロナ禍の練習では、組合がでぎずにきつかったですが、先生の指導のおかげでより強くなれました」



【大会結果】

▶男子個人

- 60^{kg}級=①白金宏都(長野・佐久長聖) ②金井拓真(群馬・桐生第一) ③五十嵐健太(神奈川・桐蔭学園)、林壮真(東京・明大中野)
- 66^{kg}級=①猪瀬真司(埼玉・埼玉栄) ②福田大和(島根・平田) ③秋田伯(滋賀・比叡山)、工藤泰輝(東京・修徳)
- 73^{kg}級=①花岡晴琉(宮崎・延岡学園) ②田中龍雅(佐賀・佐賀商業) ③平野蒼空(神奈川・桐蔭学園)、大搦弘晟(兵庫・神港学園)
- 81^{kg}級=①長澤篤希(静岡・静岡学園) ②東郷丈兒(鹿児島・鹿児島情報) ③長谷川環(東京・日体大荏原)、岡元美乃合(大阪・東海大大阪仰星)
- 無差別級=①藤本偉央(広島・崇徳) ②長濱佑飛(埼玉・埼玉栄) ③入来巨助(岐阜・中京)、桑原悠吾(福岡・福岡大大濠)

▶女子個人

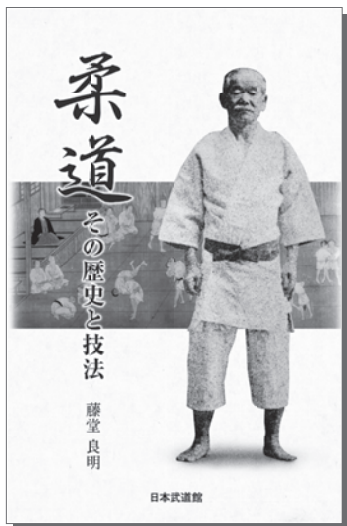
- 48^{kg}級=①池田湖音(埼玉・埼玉栄) ②近藤美月(佐賀・佐賀商業) ③西ノ内智優(山梨・富士学苑)、原田瑞希(大分・柳ヶ浦)
- 52^{kg}級=①新井心彩(埼玉・埼玉栄) ②塩原未々(長野・松商学園) ③落合倅(広島・沼田)、山下葵生(兵庫・武庫川女子大附)
- 57^{kg}級=①江口凜(神奈川・桐蔭学園) ②井田侑希(埼玉・児玉) ③山本空(大阪・東大阪大敬愛)、奥井花奈(愛知・愛知真和学園大成)
- 63^{kg}級=①石岡来望(岡山・創志学園) ②鹿歩夏(佐賀・佐賀商業) ③矢澤愛理(長野・松商学園)、徳田和華(東京・淑徳)
- 無差別級=①橋口菜央(佐賀・佐賀商業) ②椋木美希(岡山・創志学園) ③稲葉千皓(東京・国士舘)、星野七虹(神奈川・桐蔭学園)

好評発売中!

柔道 その歴史と技法

筑波大学体育系教授 藤堂 良明 著

「原点に帰る」には、「原点を知る」必要がある。



四六判・上製・330頁・本体2,400円＋税

柔道の歴史を振り返りつつ、その技法が、どのように形作られてきたのかを、丁寧に解説しています。



武道の稽古は、技を通して精神を磨き、やがて社会のためになるという教育の道でもあった。時代は移り変われども、日本の伝統に培われた^{*}武道としての柔道、を見失わないでいただきたいと願うものである。(本書「あとがき」より抜粋)

目次

<p>第一章 組討ちの起こりと技法 体術の起こりと技法 組討ちの体系化と技法</p> <p>第二章 柔術諸流派の歴史と技法 竹内流腰廻 関口新心流柔術 起倒流柔術 起倒流柔道 直信流柔道 真之神道流柔術 天神真楊流柔術</p>	<p>第三章 講道館柔道の歴史と技法 講道館柔道の創設と技法 嘉納治五郎の乱取開発 講道館柔道の行事と整備 警視庁武術大会の勝利と技法 学校体操への柔道導入の試み 学校における柔道普及の実態 高専柔道の起こりと技法 嘉納治五郎の他武道への接近 精力善用国民体育の創案と技法 全日本柔道選手権大会の開催と技法</p>	<p>第四章 第二次世界大戦後の柔道復活と技法 第二次大戦中の柔道界と技法 第二次大戦後の柔道禁止と復活 格技柔道から武道柔道へ 女子柔道の競技化と技法</p> <p>第五章 柔道技法の変遷と国際化への課題 柔道技法の変遷と特徴 柔道の国際的普及と発展 段位制度の国際比較 柔道の国際化と課題</p>
--	--	--

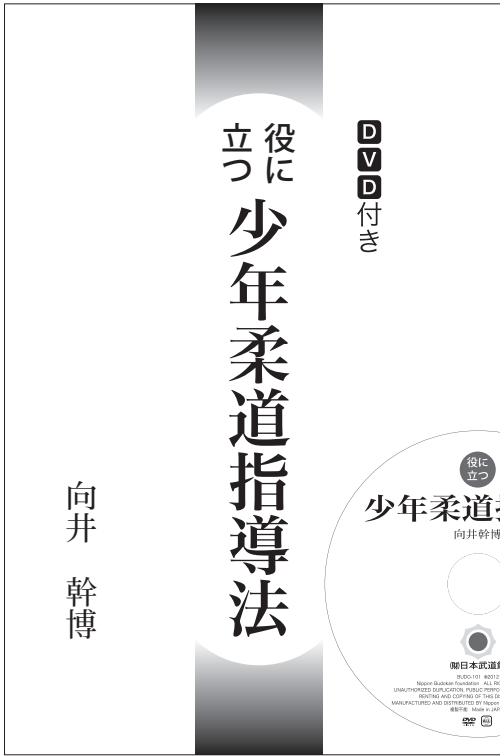
<p>編集・発行 日本武道館 〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3 ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp</p>	<p>お問い合わせ・ご注文は 日本武道館出版広報課 まてどうぞ!</p>	<p>TEL03(3216)5147 FAX03(3216)5158</p>
--	--	---

好評発売中！

公益財団法人講道館道場指導部課長
向井幹博
(むかい みきひろ) 著

役に立つ
少年柔道指導法

収録時間170分を超える
解説DVD付属！



A5判・並製・DVD付・414頁・本体2400円十税

少年柔道指導の現場で役に立つ好評連載を単行本化。付録のDVDには、写真では伝わりにくかった部分を映像で紹介。
また、少年柔道が抱える様々な問題を、講道館所蔵の柔道文献から、解決の糸口を探っていく。

〈目次〉

第1部 解説編	第9章 少年柔道の未来のために
第一章 少年柔道は柔道指導の原点	第二章 実技編
第二章 基本動作の指導	第一章 礼法の指導
第三章 技の指導	第二章 受け身の指導
第四章 教育の中の柔道	第三章 基本動作の指導
第五章 指導の工夫	第四章 トレーニング法の指導
第六章 少年規定の変遷と問題点	第五章 柔道の練習法
第七章 柔道の安全指導	第六章 投技の指導
第八章 東日本大震災への講道館の対応	第七章 固技の指導

編集・発行 **日本武道館**
 〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
 ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
 日本武道館出版広報課
 までどうぞ！

TEL03(3216)5147
 FAX03(3216)5158



月刊「武道」は、全国の書店で販売しています。